たたかう意志を結集

合理化と不当弾圧に抗議し　総決起大会開く

不当な組合弾圧を排除し、第三次合理化をはね返す三池労組総決起大会は、幹部一〇名の不当な解雇が通告された翌日の二四日、一〇時より笹林公園に各友誼単産、組合員、主婦会員など約一万五千名を結集して開かれた。大会の後、降り出した大つぶの雨の中を、会社幹部がたてこもった山の上クラブに全員で抗議デモをかけ、会社の不法不当な責任追及、不当弾圧、人権無視などに抗議を行ない、前日にひきつづき幹部一〇名に郵送された個人あての解雇状を一括して返上した。

スクラムをといて　みんなで一歩前進

大会は議長団選出のあと、経過報告に入り、灰原書記長は

三井鉱山の賃金カット、保安サボ、組合敵視政策は絶対に許すことは出来ない。これはわれわれの抵抗にたいする会社のあせりをあらわしたものである。

われわれの同志のある分会長は「今までは、皆でスクラムを組んでガンバローをうたっていたが、今後は、そのスクラムを解いて、みんなで一歩前進しよう」と語っている。いまのわれわれにとってこれに勝る言葉はない。

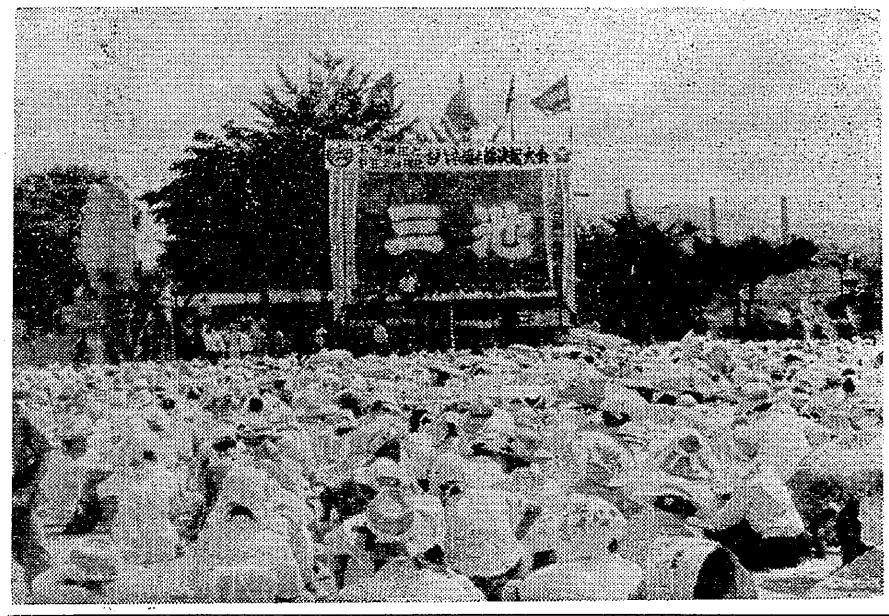
三池斗争で三池にオルグに入っていた淀鋼の同志は「俺たちは三池で教わることが多かった。二年まえのことであるが、学習が非常にすすんでいると思ったしかし、一人一人が会社と対決するというところにあと一歩の飛躍がたりないように思った」と語ったが

われわれは同志たちのこのような苦い言葉を忘れたくない。

一層の抵抗強化を

このあと挨拶にたった筑川組合長はつぎのように決意を語った。

「われわれの不屈の抵抗は第二組合や会社の中に矛盾と困難をおこさせてきた。これはわれわれの抵抗の結実である。会社の強制にもかかわらず、三年間も一五、〇〇〇トンが出ないのは、会社が一貫してとってきた差別と組合無視とが生産と両立しないことをあらわしている。本日を契機に、もう一度討議をして抵抗の足なみをそろえよう。勝利の確信にたって、われわれのたたかいを横にひろげ抵抗を強化しよう。同時に政治斗争、平和斗争にも積極的にとりくもう」



つづいて五島主婦会長の挨拶、来賓として阿具根参議、門間総評副議長の挨拶があり、古賀炭労委員長は「三年まえにわれわれが勝利しなかったことが多くの合理化を生み、われわれが一歩退けば攻撃が倍加した。不屈にたたかう三池支部への攻撃は、総評・炭労・三池が一体となってあらゆる方法で反撃する。四、五〇〇名が三池斗争の正しさをおう歌できる日までたたかおう」と語った。

このほか丸岡九炭労委員長、社会党植崎弥之助代議士、共産党松倉三郎氏、解放同盟上杉書記長らの挨拶があった。

このあと、降り出した雨で予定を変更し、祝電一七七通を披露しスローガン採択のあと、ただちにデモにうつった。

▽　△

八月二四日笹林公園で開かれた三池労組総決起大会

三池労組がんばれ!!

全国の仲間から激電

三池労組の不屈のたたかいをはげます激電合計一七七通が二四日の総決起大会によせられた（順不同）

「幹部の解雇通告ふんげきにたえず、団結をさらに固め完全撤回までだんこたたかうことを祈る。われわれも最後までともにたたかう。」　福岡総評

「輝ける斗いの指導者一〇名の首切りは労働運動の弾圧であり、組織に対する攻撃であってたんじてゆるせない。責任をとるべきは資本家でありその分裂支配と結託し、労働者の団結をウラ切り、紛斗激化の要因を作った悪質御用分子である。不当にして非人間的なクビ切りと弾圧をハネ返すため、激しい怒りをこめ全力をあげて斗かい抜かれよ。共に斗うことを誓い激励をおくります。」　新日窒水俣労組

「三池支部に加えられた不当解雇通告は、単に三池のみでなく、全労働者にかけられた組織破壊のための攻撃であるとわれわれは理解し、本日この抗議のために総決起大会に結集された仲間諸君に心からの敬意と拍手を送ると共にわれら共にたたかうことをちかう。」　道炭労

「団結を強め、労働者の生活と権利を守るため、断固たたかわんことを誓う」　日本社会党

「今回の指名解雇は「安保と三池」の斗いに参加した全労働者階級と民主勢力に対する攻撃であるそれは日炭高松の指名解雇と同じように、米日反動勢力が軍国主義復活のために労組合破壊、産報化するあらたな合理化攻撃であり断じて許すことが出来ない。英雄的な三池斗争の教訓を生かし、高松とならんで全労働者階級と人民の統一行動、統一戦線をひろげつよめてふんとうされることを期待する吾党も共に斗う。」　日本共産党中央委員会

「資本の合理化攻撃に対し固く団結して斗う三池の仲間がんばれ第三次合理化をたたきつぶせ。われら最後まで共に斗う。」　社会主義協会本部向坂逸郎

「会社の不当な組合弾圧を排除し、三井の労務政策の実態を国際的にもバク露し、世界の労働基準にてらして、あらためさせる斗いに発展させよう」　ILO副理事　原口幸雄

総評関係（六一通）

静岡県教職員組合、全国一般静岡総評、新日窒水俣労組、全鉱、化学同盟、全港湾本部、野全港湾八幡、動力車労組、全林熊本、全国金属、全電通福岡県本部、佐賀県教職員組合、国労熊本地本、国鉄労組本部、紙パルプ労連、自治労、総評神奈川三池オルグ団、久留米地評、全日自労第十九回定期大会、全九電能本、全金福岡地本、戸畑地区労、全日自労熊本支部、動力車労組熊本地本、全通労組、鉄鋼労連、若松地協、昭和労組、全電通熊本県本部第一五回定期大会、自治労熊本県連、全印労組全日自労八幡分会、北九州協、安川電機労組、全農林労組、佐賀県評、都市交、全林野労働組合都職労荒川支部、北九州水道労働組合

炭労関係（三七通）

金属三井支部、宮崎県労評、紙パ高千穂労組、全国金属八幡支部福岡総評、新日窒水俣労組、全鉱、化学同盟、全港湾本部、野全港湾八幡、動力車労組、全林熊本、全国金属、全電通福岡県本部、佐賀県教職員組合、国労熊本地本、国鉄労組本部、紙パルプ労連、自治労、総評神奈川三池オルグ団、久留米地評、全日自労第十九回定期大会、全九電能本、全金福岡地本、戸畑地区労、全日自労熊本支部、動力車労組熊本地本、全通労組、鉄鋼労連、若松地協、昭和労組、全電通熊本県本部第一五回定期大会、自治労熊本県連、全印労組全日自労八幡分会、北九州協、安川電機労組、全農林労組、佐賀県評、都市交、全林野労働組合都職労荒川支部、北九州水道労働組合

新幌内支部、目尾労組採炭部会、志免支部、古川目尾労組、共産党鳳島労組、三井芦別労組、大正地区本部、鳳島労組、北炭幌内労組、鳥廻労組、大平洋労組、明治平山労組、日炭高松労組、道炭労鹿路、炭労尺別支部、道炭婦協、崎戸労組、大辻労組、宇部興炭労、三井山野労組、飯野労組、平和支部、立川労組、釧路地区協、古川目尾労組青年婦人部、池谷労組、あつけし炭鉱労働組合、奔別労組東幌内職員組合、北海道東幌内炭鉱労組、歌志内労組、高島労組、赤池労組、道炭労、共同日吉炭鉱労組、新入労組、炭労杵島、赤間労組、万字労組

政党関係（二四通）

共産党赤間細胞、社青同東京地区本部、社青同東京地本太田支部、社青同福岡県庁班、社青同福岡電話班、民青福岡県委員会、民青福岡地区、社青同嘉飯支部、社会党福岡県本部、日本共産党中央委員会、社青同福岡地区本部、社青同東京地本中野支部、社青同田川支部、社青同八戸支部安川班、社青同県支部班、社青同八幡地域班、社青同福岡支部、社青同西日本新聞班、社青同福岡保険、共産党日炭高松細胞、共産党福岡県地区委員会、社青同大牟田支部、社会党熊本県本部、日本社会党

社会主義協会（二〇通）

社会主義協会本部向坂逸郎、佐世保支部、大分支部、鹿児島支部、下関支部、宮崎支部、久留米支部、田川支部、杉並支部全電通本部班、埼玉支部、全通本部班、東京支局、中野支部、佐賀支部、北九州支部、福岡支部、九州支局、熊本支部、長崎支部

離職者関係（一〇通）

兵庫県三池離職者同盟、不知火会座間班、離職者大阪集会、むつごろ会、不知火会埼玉ブロック、三池離職者埼玉班、不知火会ふたわ班家族一同、三池離職者北九州ブロック、不知火会芝浦班、埼玉県根岸不知火会

その他（二五通）

全国一般書記長倉持米一、東京三池を守る会、私鉄総連堀井参議阿久根登、代議士坂本泰良炭労本部坂井中執、ILO副理事原口幸隆、労働大学、停年退職者白木亀男、福岡第一法律事務所、全電通新宿電話分会さくらいゆきお、総評竹本肥種、多賀谷真稔、田中稔男、前参議森中守義、北九州市長吉田法晴、浦川守、総評全国オルグ河野・松尾、政治局酒井善為、参議小宮市太郎、九州地方学生自治会連合、遠賀地区共斗会議、神保芳秋、全通村上三池を守る会

四一、四二人目の犠牲者

四山鉱で連続災害

八月二八日午前一一時二〇分頃四山鉱六〇〇M坑道西五卸8片一卸で、四〇KWPC原動機を積込み降下操作中、その台車が逸走し払面発破のため、約一〇三M下方の冷却機附近に待機中の払採炭工の群に激突し、十一名の重軽傷者を出した。重傷者の内一名は二九日午前三時頃ついに死亡した。

罹災者はつぎの通り（いずれも採炭工）

水木一喜（四九才）重傷後死亡
吉村正成（四八才）重傷
田中忠昭（二二才）重傷
磯貝義宗（四七才）重傷
（三池労組）
西坂春雄（四一才）重傷
（三池労組）
高井浅太郎（五〇才）重傷
石橋一波（二九才）重傷
小柳武光（三〇才）重傷
深町正太（三七才）重傷
（三池労組）
藤本　敬（二五才）軽傷
福田幸生（二三才）軽傷

違法の作業を指示

今回の作業内容も、

一、自走勾配の個所でありながらコースを使用しない作業の指示をしたこと。

二、そのような個所でありながら同時に上の目貫で鉄柱運搬作業をしていたので、コースを使用すべきなのにできない状態であった。

三、警報装置や鉱車逸走防止装置が全く不備であり、事実何の役にもたたなかった。

というような全く、はじめから保安を無視したものだった。

このような結果、台車をうしろからチェーンで引っぱりながら降下させているうちに、だんだんスピードがつきはじめ、止めることができなくなった。また、警報装置や逸走防止装置が不備であったことが、事故をこのように大きくしたものである。

二九日にも死亡

二八日の一一名死傷にひきつづき二九日午後一一時ごろ四山鉱六〇〇M坑道一四卸西一片払いで鉄柱回収作業中の前田福松さん（四五才＝三池労組四山支部）に鉄柱が倒れかかり腹部を打撲した。被災直後は外傷は大したことはないが腹痛を訴えるため二九日夜収入院をしていたが、三〇日午前三時ごろ痛みが激しくなった。三時三〇分に切開手術をしたところ肝臓が破裂しており、措置の方法もなく、酸素吸入、輸血なども効なく三〇日午前八時一二分死亡した。

災害抗議スト突入

利潤追及に狂奔する生産第一主義に抗議し、三池労組は八月三〇日、三一日に抗議ストに入った。